

ティーンがつくるスーパーライブ2006 ナキワラ!

日本中の才能をキャッチする。

www.nla.or.jp/

きみもNLAに参加しないか?
詳しくは携帯電話からアクセス!

<http://nla.or.jp/i>



泣いて笑って感動のステージを全国規模で繰り広げる、
ティーンがつくるスーパーライブ2006ナキワラ!では
日本中の才能を募集しています。
熱いメッセージを届ける主張部門、ライブで感動を伝える音楽部門、
何が飛び出すかわからないパフォーマンス部門、
そして大会の運営を支えるスタッフ部門。
きみもナキワラ!のステージで思いっきり自分の才能を発揮してみないか。

参加者募集!



メッセージ

5月31日応募締切



ミュージック

5月31日応募締切



パフォーマンス

5月31日応募締切



スタッフ

常時募集

第29回 全国高校生の主張・音楽祭

下記実行委員会またはEメールにてお気軽にお問い合わせください。

全国実行委員会 Eメール: info@nla.or.jp

TEL: 03-3583-9353 10:00~17:00 (水曜日を除く) FAX: 03-3589-4003

主催/ニューライフ・アドベンチャー全国高校生の主張・音楽祭実行委員会 (財) 科学技術教育協会 (財) 小笠原科学技術振興財団、インターネット青少年センター ●後援/文部科学省 (財) 日本青少年研究所 (社) 日本図書館協会、毎日新聞社ほか 地元新聞社42社、北海道放送、東北放送、TBSラジオ、中部日本放送、毎日放送、中国放送、西日本放送、RKB毎日放送ほか 民放36社ほか ●特別協力/ソニー・ミュージックエンタテインメント ●協力/ 社 日本民間放送連盟、日本マクドナルド ●協賛/伊藤園 パンスクール オブ ミュージック (2005年度実績)



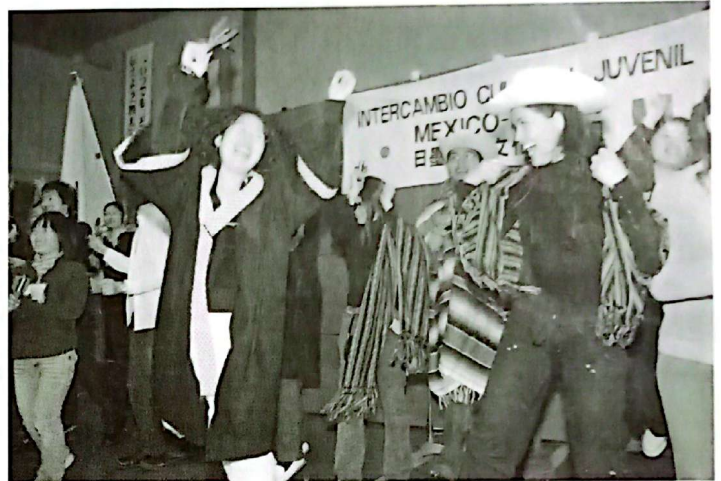
「よくお似合いで」。それぞれの国の服を着てみて、ファッションショー

もう言葉はいらない。よさこいソーランと一緒に踊って、心と心がグンと近づいた

メキシコ・グアナフアト州から、第十二次「日墨青年文化交流」訪日研修団が来日（3月15日～23日）。今年も親友会青年部がホスト役。首都圏に住む青年有志の奉仕団「CIMA MEXICO-JAPON PROJECT」の運営の下、三度にあたり交流の場を持った。

二度目の交流会が開かれた三月十八日は、WBCでメキシコがアメリカを破り、日本が準決勝進出を決めた翌日。皇太子さまのメキシコ訪問の時期とも重なり、自然と親近感が湧いたようだ。序盤の「チーム対抗二人三脚」や「日墨食比べ」を楽しむ姿は親友さながら。和やかな雰囲気のまま、その日のメインである討論会へと流れ込んだ。これからの日本・メキシコ関係「をテーマに話し合ったグループでは、メキシコ人から見た日本人の良さがたくさん飛び出した。一人に対する礼儀がこんなにもスゴイなんて」、「コミの分別方法を見習いたい」、「技術以上に伝統と文化が日本人をユニークなものにしている」など。それを聞いて、「今の日本で失われつつあるものばかり。もっと大事にしないと」と話す日本人も。また、「スペイン占領下の苦しい時代を生き抜いて、大事なものを遺してくれた先祖が誇り」、「常に国の未来を考えて、自分ができることは何か考えて行動している」と言うメキシコ人に感化された大学生もいた。「今日の内容を友達に伝えて、国のために貢献しようと思える仲間を増やしたい」。

世界平和を築くのは他でもない自分たち。両国の良さを生かして、共に成長しようという約束を交わした。



*今回は、社会貢献プロジェクトの代表者や教育省全国「両親への手紙」コンクール入賞者など、30人の団員で構成されていた

ぼくらが変われば 世界も変わる



みんなの真心を引き出すのが私の使命

ロサルバ・エルナンデス・エルナンデス

ROSALBA HERNÁNDEZ HERNÁNDEZ



26歳/2005年 教育省全国「両親への手紙」コンクール青年の部1位入賞者/ベラクルス大学院大学社会科学部卒/大学法学部講師

「人に地球にもっと優しい自分でありたい」。日本に来て改めて思いました。私は今、弁護士として働く傍ら、地域貢献のための団体に所属し、様々な奉仕活動をしています。昨年、教育省全国「両親への手紙コンクール」に出場したことをきっかけに親友会にも入会。同じ志を持つ仲間を増やそうと日々取り組んでいます。中でも力を入れているのが先住民の方のケア。私自身、先住民の血を受け継いでいるので、何かができるのではないかと思っています。例えば、スペイン語が分

からない人のために言語的な補助をする。地方出身の貧しい子どもでも、都心の大学で学べるように橋渡しをする。昔から伝わるお祭りを多くの人に伝える。先住民が持つ文化に誇りを持つてもらえるようにするなど。小さな思いやりを積み重ねて、社会を変える大きな力を生み出そうと頑張っています。

私が人のためになろうと思うようになった背景には、生い立ちがあります。私が三歳のとき、父が誘拐されて一文なしに……。七人の子どもを抱え、あかざれたらけになった母の手を見るたびに、「私にできることはないのか」。そう思い、七歳の頃から勉強と仕事で外へ出ていくようにしました。でも、そこで見たものは、自分よりもさらに物がなくて不自由な思いをしている人々。私たちが窮地に立たされたとき、血縁ではない「心の家族」にどれだけ支えられたか。それと思うと、動かすにはいられなかったのです。

今回来日するにあたり、今後の活動のためにいるようなものを吸収しようと決まっています。戦後から今日まで、日本がどうやって発展してきたのか、人々の姿から読み取ろうとしていたのですが、電車に乗っていると、みんな携帯電話や本しか見ていない。他人に無関心で冷たい感じが。でも、私が転びそうになった瞬間、バツと手が出てきたんです。いいところ、そこで人の優しさを感じて、これが今の日本をつくったもとなんだ。知識や技術があるとか、言葉が話せるとか、それも大事だけど、人の心があつて初めてプラスのものを生み出せる気がしました。

また、広島県原爆記念資料館を見学したとき、こんな話を聞きました。「ここを訪れた誰もが心を痛めて涙を流す」と。人を陥れる悪い心がある一方で、同じように真心も存在する。そのプラスの心を引き出していくことが私の使命だと思います。

日本で学んだことをメキシコに持ち帰り、生かすことがこれからの目標。幸せだと心から感じられる人が増えるように、これからも頑張ります。